

## 第 49 回 旧 R D 最終処分場問題連絡協議会の開催結果

■日 時 令和 6 年 6 月 7 日（金） 19:00～20:42

■場 所 栗東市コミュニティセンター治田東（栗東市安養寺 205）

## ■主な質疑・ご意見

## 1 前回の開催結果の確認について

特に意見等なし

## 2 令和 5 年度第 4 回モニタリング調査結果について

①H26-S2 ですが、ひ素がまた上がってきている。嫌気状態になっているということだが、こんなに変わるのか。新たにまた溶け出しているのか。

⇒これまで 0.02 (mg/L) 切るぐらいから 0.04 (mg/L) 超えるぐらいで変動してきており、今回もこの変動の範囲内の結果と考えている。県全体で自然由来のひ素がある地域を調査しているが、大きく変動している地域もあり、特段おかしなことではない。

## 3 維持管理の状況について

②降水量が 7 月ぐらいに高くなるけれども、処理水量は同じぐらいであり、処理しない水がどういうふうに動いているのか説明していただきたい。蒸発する部分、地面に染み込んだもの、処分場外に流れ出ているものもあると思うが、割合をどのように想定しているのか。汚染水が外に出ているということは想定しなくていいのか。量的には、それは証明できるのか。

⇒降った水ですけれども、一部は染み込んで、一部は表流水として流れていく、というのが一つ。じわじわと染み込んでいく、水の流れるスピード、この雨と水処理施設に入ってくる水量が必ずしもリンクしない状況になっている。

設計の段階では、大体雨水の浸透水は平均でいうと 27%、最大でいうと 35% という形で設計されている。令和 4 年度の実績で降水量として約 8 万 4,000 m<sup>3</sup>、それに対して、処理量として 2 万 m<sup>3</sup> ぐらいになるので、計算でいうと 23% ぐらいということになる。ほぼ設計どおりの数値で浸透水量を処理できているという状況であり、今のところ、穴から漏れているとかまでは、量的な観点から見ても大丈夫かなと考えている。

#### 4 遮水内部の安定化へのプロセスの状況について

③非常に安定化に進んでいることはよく分かるが、地表面の変化はもっと大きくてもいいのではないかという気がするが。管理型処分場と比較する意味はあるのか。

⇒管理型処分場の例を出させていただいたが、廃棄物の性状も違うので比較するのは難しいところもある。アドバイザーに累積の沈下量で2cmというところを聞くと、測量を始めた時の有機物の量というのは全体に低くなっていて、沈下量の原因は主に物理的な圧密ではないかといっていたところである。

#### 5 その他

④砂ろ過のろ材交換は、どれぐらいで交換されるのか。黒いものがあつたということだが、どんなものかは調べていないのか。

⇒砂を通る水圧も測りながら日々の維持管理の中で状況とかも確認し、タイミングを計り交換している。(黒いものは)特に調べたりはしていない。